

## 政策対話（企画振興部）の概要

### 1 テーマ

信州これから会議 ～コロナ後の未来を、皆さんと語り合いたい！～

### 2 実施概要

#### (1) 日 時

令和3年11月7日（日）から令和4年2月13日（日） 計9回

#### (2) 場 所（実施手法）

ZOOMによるオンライン開催

#### (3) 参加者（視聴者）

73名（クリエイター、教育関係者、医療・福祉関係者、行政職員、エンジニア、地域おこし協力隊員、学生等）

県側：知事、総合政策課職員 ほか

### 3 対話での意見（概要）

区 分	意 見	意見に対する県の考え方
働き方・暮らし方	①常識を変革し、多様性を認め合う社会へ。働き方をアップデートする。 ②多様性から、職住が「接近」している。「境目のない暮らし」を、新しいライフスタイルの選択肢として定着へ。 ③それぞれが、働き方・暮らし方の「実践」を発信。多様なチャレンジを信州から。	・ 現在策定している次期総合5か年計画に反映していく。
文化・スポーツ	①文化・スポーツが暮らしに根付く社会を自らの手で。地域に暮らす自分たち自身が、街の文化を耕していく。 ②特異な才能と「出会える」地域に。あたりまえに活動できる環境と自然に交流できる状況をつくる。 ③文化・スポーツに触れる「タッチポイント」を増やしていく。多様な繋がりをつくる「繋ぎ手」を育てていく。	・ 同上

地域コミュニティ	<p>①地域を繋ぐ「交流を生む装置」と「通訳者」があふれる地域コミュニティへ。</p> <p>②一人ひとりが地域に関わりを持ち、自らが地域コミュニティを再構築していく状況をいかにつくるか。</p> <p>③柔軟性に富み、変化を恐れない地域コミュニティとは。持続可能な地域のあり方を問い続ける。</p>	・ 同上
福祉・子育て	<p>①情報発信と共有の充実から、持続可能性や相互理解など複眼的視点を持って、社会的包摂の場を組み上げていく。</p> <p>②つながり方の選択肢を増やし、誰でもいつでも社会参加できる仕組みをつくる。</p> <p>③主体的で個性のある「しあわせ」を起点に、双方向で、心地よいお互い様の関係性が広がる社会へ。</p>	・ 同上
産業	<p>①量から質への転換により「刺さる」サービスを。生産過程の質を付加価値に。</p> <p>②地域やセクターを超え、多様な関係者を巻き込み、その組み合わせから強くなやかな地域産業を構築していく。</p> <p>③一時的な動きだけでなく「その先」を見通すチカラを養う。</p>	・ 同上
学び	<p>①急激で連続する変化に対応できる「人」に育つには。主体的に問い続ける姿勢をマイプロジェクトに。</p> <p>②教えると教わるが入れ替わり、コミュニティを横断する「学び合う」社会の構築へ。</p> <p>③地域全体が学びの場に。地域の接点から学校教育自体にも影響を。</p>	・ 同上
総論	<p>【信州のこれからへ向けたわたしたちのメッセージ】</p> <p>信州に暮らす、これからの「しあわせ」とは何か。</p> <p>問い続け、わたしたちの手で実現していく。</p> <p>① わたしたちの「真のしあわせ」を問い続ける。 それぞれに気持ちの良い暮らしやあり方を探求していく。</p> <p>② 社会的包摂から寛容な地域社会をつくる。 トライアンドエラーを許容するしなやかな関係性を構築していく。</p> <p>③ コロナ禍により、一層顕在化した分断に橋を架ける。 間（あいだ）をつなぎあわせ、共に支える地域社会を創造していく。</p> <p>④ つながる場の選択肢、新たなコミュニティを林立させていく。 それぞれが複数の所属や居場所を持てる社会へ。</p> <p>⑤ 小さな対話をたいせつに。 関係の編み直しから、ソーシャルキャピタルの構築へ。</p>	・ 同上